

教育と文化

伊万里とロシアの陶磁器がつなぐ未来 大川内小学校とグジェリ中等教育学校との交流会

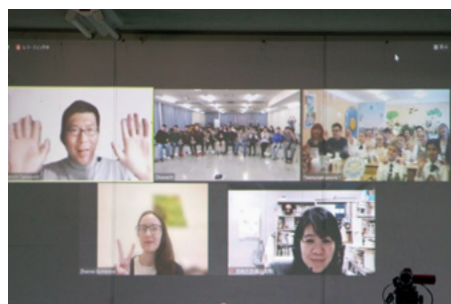
12月20日、市役所で大川内小学校とロシアのグジェリ中等教育学校とのオンライン交流会があり、大川内小学校の6年生12人が参加しました。

これは、両地域共通の伝統産業である陶磁器を通じて、お互いの国・地域の歴史や文化、学校生活を知ること、新たな国際文化交流の輪を広げようと企画されたものです。

この開催は、ロシアとのつながりがある企業の株式会社テクノソリューション（東京本社）の協力により実現しました。



↑ロシア語を交えながら自己紹介をする大川内小学校の児童たち



↑遠く離れていても最後は全員で記念写真撮影

交流会では、グジェリ村の村長が「日本の子どもたちと友達になれて嬉しい」とあいさつし、グジェリ中等教育学校の10〜14歳の子どもたち12人が、焼物をはじめ、さまざまな地域の特色を紹介してくれました。

交流会後に大川内小学校の児童たちは、「ロシア語のあいさつを勉強してきた。しっかりと覚えて良かった」、「グジェリ村の学校にも、大川内小学校と同じように陶芸教室があることを知り、驚いた」、「世界の焼物について、たくさん知りたいと思った」、「他の外国の人とも交流をしてみたい」など感想を話しました。

郷土の文化財

伊万里の遺構シリーズ「埋葬遺構を中心として」⑮

● 問合先 生涯学習課文化財係 ☎ 22-1262

大光寺遺跡の近世墓群

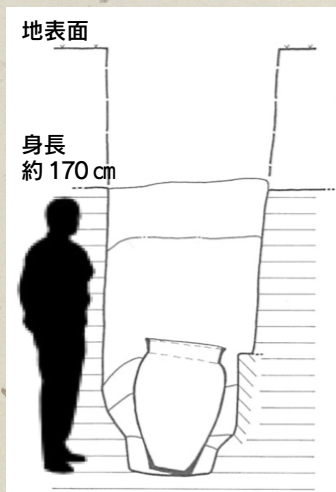
（松浦町大光寺 平成2・3年調査）

大光寺遺跡の近世墓（江戸時代の墓）群について紹介します。

近世墓群では12基を調査し、そのうち10基は大形の甕（陶器）を棺桶として使

いた。大形の甕を使っていたのは大形の鉢を使っていた。残りの2基は木棺を使ったと思われる。墓穴の深さは1・8m以上あり、場合によっては、地下の岩盤（砂岩）を掘り下げている状況であった。一番深いものは2・6mあり、岩盤を70cmも掘り下げているものがありました。

地元で墓穴掘りを経験した人に聞いた話では、墓穴は深く、遺体を入れた甕を据えたあと、その甕の縁に足を乗



↑近世墓の断面図

せて両手を伸ばした状態で、指先が地表面に出るくらいだったので、墓穴の上に居る別の人が手を握って引き上げていたそうです。深く掘る理由は、墓掘りは日当で賃金が出ていて、長い時間、掘れば掘るほど日当がもらえて、また差し入れなどもあったからとのこと。近世墓の墓穴の深さと日当のことを、すぐに当てはめることはできませんが、民俗事例の一つと言えるでしょう。